

12月27日(金)9:00からCRTスタジオで収録

2025年も読書に励もう

—「著者との時空を超えた対話」で「思慮深さ」「省察力」「自省心」を身に着けよう!—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. 開倫塾の時間は、「効果の上がる学習方法」について、社会人を含む皆様にお伝えする番組です。開倫塾では、「顧客」を「塾生・保護者・地域社会の皆様」と定義します。
2. 勉強は、
 - (1)学校の教科書や様々な資料・試験問題などを読み込み、理解して、文字や活字に親しみ、初めて進むものです。文字や活字、文章や情報を「読み込み、理解する力」を「読解力」がすべての勉強には必要です。
 - (2)「読解力」を育てるために、「辞書」「読書」「新聞」「図書館」に慣れ親しみ、活用することをおすすめします。
 - (3)①まずは、「辞書」に親しみ、ことばの数を増やすこと。
 - 「ことばは力」「ことばの多さ」「語彙数は力」だからです。
 - ②次に、「新聞」を毎日読み、今、地域や日本、世界、つまり、世の中の出来事を知ることと同時に「批判的思考能力(クリティカルシンキング)」と「自分で考え力」を身に着けることが求められます。
 - ③第3に「読書」。これぞという本をじっくり読み込み、筆者との時空を超えた対話をする「こと」により「思慮深さ(考える力)」「自省心(自分を省みる力)」「省察力」を身に着けることが求められます。
 - ④第4は、「辞書」「新聞」「読書」に親しむための絶好の場所は、「学校図書館」「公共図書館」「大学図書館」最近日本でもはやり出した「私設図書館」など「図書館」に慣れ親しみ、活用することです。
 - 図書館を「自分にとっての居場所にすること(サードプレイス)」
 - ちなみに、一人一人の人にとって大切な場所(プレイス)は3つあり、「ファーストプレイス」は「家」、「セカンドプレイス」は「学校や職場」、「サードプレイス」は「ホッと自分の居場所」といわれています。
3. (1)本日の「開倫塾の時間」では、何を読むか、どのように読むかなど「読書」の仕方についてお話しします。
 - (2)何を読むか
 - ①まずは、「身近にある本」を読む、「学校の教科書や参考書」「読みかけの本」「家の中に

ある本の中で読んだことのない本」をじっくりといねいに一語一語「理解」しながら読む。

②次に、本のおいてある場所、学校や地域にある公共図書館に行き、そこにある本の中で興味のある本を選び、そこで読む。

③最後に、本屋さんに行き、本を探し、自分のお金で買い求め、じっくり読む。本の中には、「新刊本を扱う本屋さん」と「古い本を扱う本屋さん」があります。最近では「オンライン」の本屋さんもあります。

(3)どのように本を読むか

①まずは、最初の100ページまでがんばって読む

②次に、最後のページまでがんばって読む

③「図書館」の本は別として自分の本はえんぴつを持ち、どんどん書き込みをし、「筆者」「作者」との「時空を超えた対話」をしながら読む

④よくわからないことばがあつたら、気持ちが悪いと思い、「辞書」で調べる。調べたことは、「意味調べノート」やその本の中に書き込みながら本を読む

⑤本は、2～3回、5回～6回読む

4. おわりに

(1)① 2025年の信念が始まりましたので、本日の開倫塾の時間では「本の読み方」をお話しました

②すべての勉強の前提となる「読解力」を身に着けるのには、「辞書」「新聞」「読書」「図書館」に慣れ親しみ、最大活用することが大切です

③是非、2025年はこれぞという本を読む

(2)①「光の君へ」で「平安の文学」に興味をわいてきたら

「源氏物語」(紫式部)、「枕草子」(清少納言)、「更級日記」(菅原孝標女)も現代語訳だけでも読む

②「平安時代」の歴史に興味をわいてきたら「吾妻鏡」^{あづまかがみ}を読む。「刀伊の入寇」^{とい にゆうこう}の解説本を読むことをおすすめします

③10月からNHKの連続テレビ小説は、「ばけばけ」明治時代の作家、小泉八雲の妻、小泉セツの話なので、10月までに「小泉八雲」の本を読む

(3)①「読解力」なくして「学力向上」はありません

②「学んだことを自分のことばで言える(表現・説明できる)」つまり、「深い理解」が学力向上の目的です

③今年一年、2025年も「読書」に励み、「読解力」を身に着けることをおすすめします

今年もよろしく願いいたします